

雪...

遠くの山々が白い衣を纏う頃
北からの冷たい風に乗って
枯葉色になった田んぼや野原に
静寂の白い妖精たちが舞い降りる

緩やかだったり 楽しげだったり
時には激しかったり 荒々しかったり
天から旅する彼らは 色々な顔を見せる

これからの数ヶ月
そんな彼らが作り上げる白銀の世界を
静かに そして心穏やかに
過ごしていきたい

雪の下で小さな芽が育くまれていくように.....

目次

- P1 味あらかると
- P2 子どもの心を耕す読書のすすめ・さんやそう
- P3 虹のひろば
- P4~5 子どもぴぴっとクラブ通信
- P6 ちょっと気になる新聞記事!!
- P7 まうすりいだより
- P8 冬だより・編集後記



味あらかると

問題となる事柄を分かりやすく説明して聞かせる話を「講話」と言う。
今年、(株)教育開発研究所からの依頼があり、図らずも「一日一話 学校講話事例 365」の執筆にあたることになった。

講話は論理的に構成され、感動を与えるものであること・考える糧になること・やる気を起こさせるものであることなどが必要条件である。そのためには、「内容がよい」「話し方がよい」「話すタイミングがよい」の三拍子そろうことが大切である。

学校に在勤中は子どもたちへの講話では特に話のネタに悩み苦労が多かった。子どもの前で講話をするときは、まず話の内容を構成するネタ(話の材料)「たね」「種を逆さ読みした隠語」を探さなければならぬ。それをもとに、子どもの発達や状況に応じて再構成したり、できるだけ生活に投げかけ分かりやすい言葉を選んだりして、事実からのメッセージとして練り上げる準備が必要である。

話の材料はさまざまところこころがつている。しかし、その気にならないと見えない。不思議である。常に、新聞や雑誌・本などを読むときやテレビ・ラジオを見たり聴いたりしているときに気を配り、メモし、収集しておかなければならないことを身をもって学んだ。収集した材料は自分なりに分類し、保管することの大切さも仕事を通して教えられた。まさにセネカの言う「人間は教えている間に学ぶ」である。そして何より執筆者になって嬉しかったことは、北上市の小・中学生の活躍の様子を記録にとどめ全国に発信できたことである。

子どもの心を耕す読書のすすめ

空想の世界の広がりや家族の温かさを・・・

「とりかえっこ」 <2 3 4歳>



かわいいひよこが遊びに出かけます。ネズミに出会って、鳴き声をと리카えっこします。ちゅうちゅう鳴きながらブタ・カエル・イヌ・カメと鳴き声を次々ととりかえ、いろいろな冒険をしていくおはなしです。イヌの声では強敵のネコまで追い払い、最後に無言のカメの声でおかあさんの待つ家に帰りました。すると……。

登場する動物たちには、必ずそれぞれの家族や仲間がいて温かさを感じます。子どもたちは、お話を聞きながらも、日本画調の絵に描かれている小さな草花や虫たちをすぐに見つけて興味を示し、思い思いのことばを發します。3歳ぐらいになると、鳴き声のと리카えっこの意味も理解できるようになり、ごっこ遊びもできるようになります。とくに、カメの声なき「む」のところで子どもたちは、喜びの歓声を上げます。家族の温かさや空想の世界を楽しませることのできる絵本ではないでしょうか。

さんやそら

いつも野にある季節の山野草を取り上げているものだから、冬を迎えるこの時期は、極めて種類が限定されてしまう。当然、晩秋から初冬を彩るものとして、木の実が目がいってしまう。サワフダギ(青)、サンキライコムラサキ(ピンク)、ニワトコ(赤)、さらには小枝からみついたツル何もない季節でも自然は意外とカラフルなのである。

さて、今回はフユノハナワラビ(冬わらび)をとりあげた。もうすぐ雪が降ってくる時期なのに、このフユノハナワラビは、これからが黄金に色づき、輝きを増してくる。鉢物にして玄関に飾るなどしたらこれ以上の喜びはないと思われる。私は、この花がすぐ近くの神社の軒にあるものだから、この時期になるとこっそりと訪ねては一人で楽しんでいる。ワラビの名が示すようにシダ類に属する。夏は枯れて休眠し、秋から冬(雪のない地域では春まで)にかけて半日陰の林中、林縁や草原に見られる。鉢あげの時期を間違えなければ、割と鉢物には作りやすいようである。



フユノハナワラビ

(文・写真提供 西和賀町沢内 大石 信夫氏)

夏に高校生とノリノリ交流

西和賀高校の1年生9人(男7名、女2名)が、総合学習のために来所しました。保育体験ということで、子どもたちとふれあって積極的に遊んだり・世話をしたり、一斉活動のお手伝いをしてくれました。

ふだん人見知りの激しい0歳児も始終ニコニコ顔。偏食のある3歳児も高校生の食欲に圧倒されたのか全部食べきりました。圧巻は園庭での三輪車や自転車乗り。補助席に乗せてもらい、大はしゃぎ。また、松の木や栗の木によじ登り、セミ取りをしてくれたお兄さんに大感謝。子どもたちからの感想はそのことに尽きるほどでした。

一方、高校生からは「初対面なのに泣かれないで安心した。」「朝から元気がよかった。」「いろいろな性格の子どもがいて、なかなか自分のことを言えない子もいた。」「保育士の数が不足に感じた。それをどのように乗り切っているのか?」「先生の苦勞がわかった」などの感想や質問が出されました。

意欲満々で受容的な優しいお兄さん、お姉さん本当にありがとうございました。

園児・生徒共に、とても楽しいノリノリ交流となった良い一日でした。



足と手のぬくもりを感じて、はんとう棒に挑戦・・・2歳児



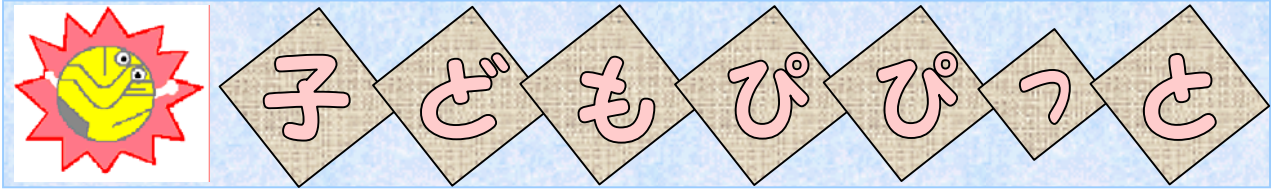
自画像を描く・・・3歳児



三輪車の後部に乗せてもらって
いい気持ち・・・1歳児



運動会用具をいっしょに製作・・・5歳児



第3回 平成17年9月8日開催

✦文の大事な要素である「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「どうして」「どうなったか」を、新聞記事の中から探し、文の成り立ちを考える。

✦各要素カードに自分たちで好きな言葉を書く。

✦集めた要素カードの中から、ランダムに一枚ずつ選んで文を作り発表する。

思いがけない文章ができ、子どもたちは大喜び。あまりのおかしさに読みあげている子が笑ってしまい、『聞いている子たちは意味がわからない。』というハプニングもできるほど、大いに盛り上がりました。

- 文には起承転結があることを説明する。
- 順序を入れ替えた新聞の4コママンガを使い、話の流れを考えながら正しい順に直す。
- 別の4コママンガを使い、転の部分に当たる3コマ目の吹き出し部分を変えてみる。
- 実際にオリジナルの4コママンガを作る。

マンガの入れ替えを考える場面では、素材となったマンガの内容が難しかったこともあり、なかなか正解が出ませんでした。逆に子どもたちから活発に意見が発表されました。今回は時間が足りなくてオリジナルマンガを完成させることができず、子どもたちはとても残念がっていました。



家で書いてきてくれた作品

クラブ通信

小学生の子どもたちを対象に、遊びを通して新聞に親しみ、表現力や国語力を自然に身につけてもらおうと、ぴぴっと研究会が主催している会です。

第4回 平成17年12月4日開催

- ✦新聞に関係のある内容で読み札を作り、それに合った絵札を描いたら完成。
- ✦できた作品でかるた取りを楽しむ。

自分たちで作った『かるた』は格別。だんだん身を乗り出し、最後には机の上に靴を脱いで座り込んでしまいました。同じ字で始まる札が複数あるので、読み札と絵札を見くらべ協議する場面もみられました。



子どもたちの作品から



おめでとう

平成十七年度

岩手県小中学校新聞コンクール

市内入賞者

小学校 個人新聞の部

【優秀賞】

煤 孫2年 澤藤 なつ美
煤 孫2年 高橋 鈴蘭
煤 孫2年 高橋 享佑

中学校 個人新聞の部

【優秀賞】

北上北1年 菊池 知恵
北上北1年 中野 恵理子

小学校 スクラップ個人の部

【優秀賞】

煤 孫4年 長谷川 奈々子

中学校 スクラップ個人の部

【優秀賞】

北上北3年 田村 千晶

ちょっと気になる 新聞記事!

新コーナー登場!!

一般紙の記事の中からちょっと気になった記事を、会員が毎回交代で紹介します。

熱帯低気圧最多
英語名が尽きる
22個目「アルファ」に
【タンパ(米フロリダ州) 江木慎吾】プエルトリコ南で熱帯性低気圧が台風並みに発達し、22日、「アルファ」と名付けられた。名前のついた熱帯性低気圧は今期22個目で、最多記録を更新した。米ハリケーンセンターが毎年、用意している熱帯低気圧の名前はアルファベット順に21個で、英語の名前がウィルマで尽きたため、今後は発生順にギリシャ語のアルファベットがつけられる。

一方、ハリケーン「ウィルマ」はメキシコのユカタン半島を北上。22日夜には中心付近の最大風速が44分に弱まり、勢力は「カテゴリー2」になった。北東に進路を変え、フロリダ州南部に24日に上陸する見通しだ。

AP通信によると、ユカタン半島の観光都市カンクンではまる1日以上にわたってハリケーンの暴風雨にさらされ、少なくとも6人が死亡した。ウィルマによる死者は、19人になった。

(朝日新聞 2005年10月24日)

異常気象の年ばかりで、もう何が異常気象で何が本来の気象なのか分からなくなってきている感じがする昨今。来年はどうぞ穏やかに・・・。

こういう類の月刊誌はまず読むことがないけれど、こんな内容なら読んでみようかなと思う。そういうえば毎週火曜日朝八時からのラジオ番組「若手放送」に出てくる詩人のおじさんの、言語に関するとりとめもない話もお奨めの一つだ。

亀和田 武さん(作家)の
マガジン
ウオッチ

言語

「ふーん」と「へえ」の違い

取材に使った録音テープを聞き返していると、げんなりする。あの女性の教師をめぐるエピソード。その。ええと。私の口からはあまい言葉がひんぱんに発せられ、聞いていて冷や汗がでる。そうした「あ」「ええ」となると、その間投詞や、「はい」「さあ」など応答詞を含む感動詞を、ただ否定的にとらえず、「コミュニケーションに果たす役割を説明しよう」と、「言語(大修館書店)11月号」の特集を組んでいる。

かつて韓国で日本語を教えた、テレビ番組「トリビアの泉」は、なぜ韓の面白さを評価する単位として「ふーん」や「ほー」と、一読の価値があるかと。

上品で美しい日本語を話す、韓国の女性教師をめぐるエピソード。彼女の研究室で日本語で話しているとき、電話が鳴った。「そのとき、彼女が使った韓国語は、それまでの完璧な日本語の流暢さとは違って、いよゝみ、い直し、などの濁り溢れたもので、しかもいかにも自然であった。内容はこれから専門的になるが、日常会話のいいよみをする。あ、不思議なユーモア感覚が、あ、垣見られるだけでも、ええ

では、へえが用いられるのか、その必然性を周到に論じていく、富樫純一の「へえ」「ほー」「ふーん」の意味論は、マジメな顔でギャグを連発するコメディアンの変態気が響く。

マリリン・モンローが映画「七年目の浮気」で、地下鉄の通気口から吹き出す風であおられたスカートを押さえる有名なシーンがある。あ、とき、彼女は何と叫んでいたかを考察した評論も掲載されていて、うーん、言語学者の、ま

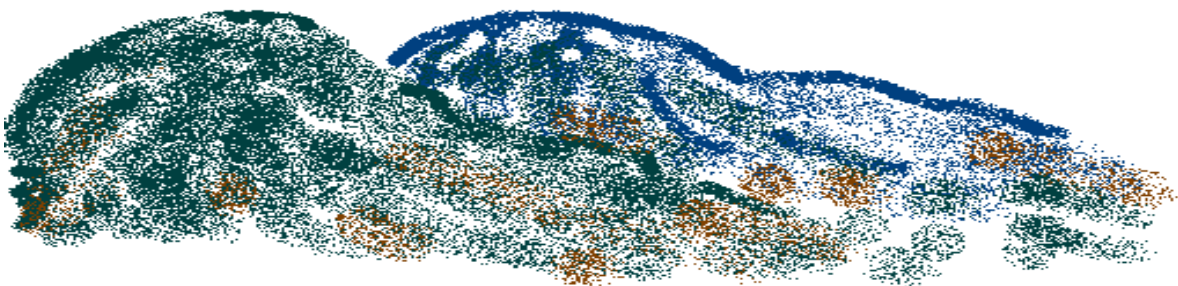
(朝日新聞 2005年10月23日)

晩秋の山路

去る 11 月 8 日、天気誘われいつもの会場を飛び出し、一路車で沢内へ。

外は色づく木々に少し陰影が混じる晩秋の風情。それも車を進めるほどに色濃くなって行く。そんな風景を愛でながら、車内ではいろいろな話で盛り上がった。今回の「まうすりい」は和賀郡湯田町と沢内村の合併で「西和賀町」が誕生してすぐの時期ということもあり、新しい町についての希望やら展望やら或いは新町長選挙について等、一層よりよい町へという参加者の期待溢れる意見が飛び交った。また、子どもたちの事件や子どもたちを取り巻く環境についても話が及んだ。

さて、今回のメインイベント「晩秋の山路を歩こう...^{しがらいさん}志賀来山」。ゆっくりゆっくり歩を進めながら葉を散らす小道を行くと、実に爽やかな汗がにじんで来る。山の静寂を味わい、美味しい空気を満喫しつつ、ゆるやかな時間を持つことができた。有意義な一日だったと思う。普段とはひと味違った今回のまうすりい。また機会をみつけて実施出来たらと考えている。



新聞を読んで今を語る会（通称まうすりい）は、「ちょっと知的な井戸端会議」を合言葉に複数の新聞を読み比べ、社会情勢から身近な出来事まで、いろいろな事柄について楽しくディスカッションしながら、おたがい刺激あって自分を高めていくことを願いスタートした会である。ぴぴっと研究会では、平成 13 年 4 月より「まうすりい」を開始。平成 17 年 12 月で 57 回を数える。

毎月第 2 火曜日、10 時から 12 時まで北上市立黒沢尻北公民館を会場に開催中。
参加希望者はどなたでも大歓迎！！

このコーナーは
会員が交代で担当しています。

黒陵ラグビー花園へ

平成十七年四月二日、第六回全国高等学校選抜ラグビーフットボール大会会場の埼玉県営熊谷ラグビー場に向かった。黒沢尻北高ラグビーを応援のためである。ラグビーを応援するのは後にも先にも初めてであった。時間はあつという間に過ぎ、花園出場四十二回を誇る四国代表愛媛県の新田高校に四十四対五の大差で勝利した。何十年ぶりだろうか、母校の応援を広いグラウンドでできた爽快感は格別であった。整然とした応援も大会を盛り上げた多くの他県の関係者からお褒めの言葉をいただいた。四月一日の開会式での緑川主将の選手宣誓も素晴らしかった、と後で聞いた。

そして十月十六日、再び第八十五回全国高等学校ラグビーフットボール大会岩手県大会の決勝の応援に盛岡南公園球技場に駆けつけた。手に汗握る見ごたえのある戦いで、強豪盛岡工業高の七連覇を阻止し十四対〇で勝利した。次の日の新聞各紙はこぞつて、「黒沢尻北高三十一年ぶり二回目の花園」の見出しが躍った。

ふと気がつくと、五年前、黒沢尻北小で一緒だった子どもたちが大活躍していた。黒北高では、一番駒込くん、三番備前くん、七番平野くん、十番松井くん、十一番高橋くん、盛岡工では、八番佐藤くんである。十二月三十日十二時、憧れの大阪花園ラグビー場で日本航空第二(石川)対萩工業(山口)の勝者とキックオフ。がんばれ黒陵、めざせ初戦突破、感動高きノーサイドを期待している。(M)



編集後記

年末の大掃除はもうお済みでしょうか? 幼い頃は冬休みに入ったとたん、連日大掃除を割り当てられ、泣く泣く窓拭きだ、障子の張替えだ、と手伝わされたものです。面倒でも区切りをつけて一年の埃を払うことは大切ですね。

年をとることにのんびんだらりと過ごしてしまいがちですが、今年一年を振り返り、また来年よい年にするために目標を持ってがんばりましょう。皆様よいお年を!

ご意見・ご感想をお待ちしております

ぴぴっと(PPT)研究会

〒024-0012

岩手県北上市常盤台 1-14-12

Tel・Fax 0197-64-0758

E-mail: agi@titan.ocn.ne.jp

ホームページ: www.npo.2000.net/ppt/